

けしごむ



www.columnland.net

頭の中の消しゴムにも消せないものって？

消しゴムと神様と。

なんにも消せない消しゴムがあった。

その消しゴムで文字をこすると、鉛筆の線が滲んで読めなくなった。

消しゴムは悲しくなったけれど、消しゴムだから涙は出ない。

そんな消しゴムを見た神様が、消しゴムに声をかけた。

どうした、困っておるのか。おおそうだ、お前の願いを一つだけ叶えてやろう。わ

しのメモによると、お前にはどうやらその権利があるらしい。

喋れない消しゴムは、心の中で神様にお願した。

じゃあ、なんでも消せるようにしてください。

いいだろう、と神様が言うと、消しゴムは不思議な光に包まれ、神様もどこかへ消えてしまった。やがて、その場に一人の男の子がやってきた。男の子はその消しゴムを取り、文字の書いてあるノートにこすりつける。

消しゴムが消えろ、と念じると、文字が消えた。

やった、と思う間もなくすぐにノートが削れるように消え、男の子の手が消え、ノートの下の机にも穴を空け、消しゴムは自由落下を始めた。

消しゴムを遮るものは無く、地面に消しゴム型の細長い穴が形成されていく。

こんなこと、望んでない。違う、やめて、と消しゴムが願うと、気付けばすぐそこに神様が立っていた。

おおそうだ、お前の願いを一つだけ叶えてやろう。

おかしい、さっき願いを叶えてもらったはずなのに、と消しゴムが思っていると、神様はふと気づいたように口を開く。

そうか、何でも消せるようにして、お前は過去をも消したのか。……それで、再び何でも消せることを願うか？

そこで、思いついた消しゴムは、願いをたくさん叶えてくれるという願いは駄目でしょうか、と尋ねた。

仕様がないう、他愛のない願い三つまでならば叶えてやろう。しっかりメモは取っておくからな。神様がそう言ったので、消しゴムは即座に言った。

普通の消しゴムにしてください。

そうして消しゴムは、普通の消しゴムになった。使われるようになった消しゴムだったが、自分が削れて無くなってしまふのだと気付き、また神様にお願する。

削れないようにしてください。

すると、表面に黒鉛がこびりつくだけで、文字が消えなくなってしまうた。

どうしてまた消えなくなってしまったのかと、消しゴムは悲しんだ。けれど神様に何を願うこともなく、その場で勘ねてしまった。

そして、消しゴムは使われることもなく、削れないからボロボロになることもなく、誰もが何もかも忘れ去ってしまうほどの長い年月が過ぎた。

——そこには、なんにも消せない消しゴムがあった。

その消しゴムで文字をこすると、鉛筆の線が滲んで読めなくなった。

消しゴムは悲しくなったけれど、消しゴムだから涙は出ない。

消しゴムは、どうして文字を消せないのか分からないし、昔のことは覚えていない。

そんな消しゴムを見た神様が、消しゴムに声をかけた——。

「消したいもの」

そんなに強くやった覚えはないのですけれども

なかなか消えませんか

そろそろ私の右腕もつらくなってきたやうです

なにやら筋繊維のきれる音すらきこえます

ゴシゴシ

ゴシゴシ

どんなに万力をこめてこすっていても

なかなか消えませんか

やぶけてカスがたまるばかりで

もはや目もあてられぬありさまですな

ゴシゴシ

ゴシゴシ

まっしろだった君の肌

もうもとにもどりませんか

僕が小学校に入学した時買ってもらった消しゴム

不思議なおいがするからずっと嗅いでいたっけ。

ある時、気が付いたら筆箱の中に無くて、あわてて探したら

かばんの奥底に寂しそうにポツリといたね。

他のけしごむを手にする事があっても

僕は結局君を使う事が一番多かった。

えんぴつをシャーペンに変えても君は僕の筆箱の中にいた。

小さくなっていく君と対照的に大きくなっていく僕。

もうこんなにも小さくなってしまったんだね。

あの不思議なおいはもうしないし、

もう豆粒のように小さくなってしまった君。

僕の成長を見守り続けた君にもとうとう最後の時が来たんだ。

僕は君の事を忘れない。だってこんなに時を重ねてきたんだ。

—— 今まで本当にありがとう ——

私の感じるけしごむ

におい付き消しゴム

においに気がとられて勉強に集中できない

まとまる君

消しカスが良くまとまる。 ねりけしを作って勉強に集中できない。

MONO

よく消える。 でもよく割れる。

ねりけし

美術の時間に使った。 だんだん黒くなってく。 気持ち悪い。
使いにくい。

砂消し

ボールペンを消すときに使う。 紙がすり減る。 使いにくい。
修正液でいいじゃん。

カドケシ

角がたくさんある消しゴム。 硬い。 次のカドが出たとき
にはもうカドが丸まっている。

食べ物型消しゴム

みて楽しむ コレクション。 機能性はない。

ノック消しゴム

細かいところを消すときに使う。 すぐ折れる。

百均の消しゴム

はつきり言って使えない。

無に返す

むかし、ある国の王室には何でも消せる魔法の消しゴムが伝わっていた。それを持って呪文を唱えると、頭の中で正確に思い浮かべた物を消すことができるという代物である。これを、王室は禁忌の具として長い間封印していた。しかし、今代の王はそれを破り、自らの道具として用いるようになった。

王は智と徳を持つ者で、始めの内は取り壊しや落石の除去にそれを使っていた。消しゴムの封印を解いたのも、万民の幸せを願った故である。

やがて隣国との戦争が始まった。軍事力のない国のため、一方的に侵略された。殺戮が繰り返され、民の血が多く流された。

悩んだ末、王はついに決断した。消しゴムの力により、敵兵を消し去ることを。そして戦いは決着した。

それから何かが歪み始めた。その力に取り付かれた王は、消しゴムの力を積極的に用いるようになった。始めは性根の腐った大臣を、そして反乱を起こそうとしたその一族を。次には悪徳な商人を。そして政治的に邪魔となる者を消すに至った。やがて、彼のことを民は恐れ始めた。

彼は彼なりの理想を求めただけだった。だが、それは自らの力のみで行われるべきであったにも関わらず、巨大過ぎる力を得て、ついにその理想は一匹の悪魔を生み出した。

狂った王は、粛清を重ね人の足りなくなった王室を金の量で立て直そうとし、民に重税を課し始めた。もちろん、払えなかった者は粛清される。裏切られた民は次第に他国へ逃れるようになる。が、それを知った王はなんと、その他国をまるごと消しゴムの力で消し、腹いせに逃げようとした民も全て消してしまった。

王はこの後も気まぐれに消しゴムの力であらゆる者を消してゆき、ついにこの世界に、彼と彼の国だった物以外は何もなくなってしまった。

そう、この悲劇の王は封印を解いたことで、自らの世界を消してしまったのだ。彼は自らも消してしまおうとしたが、もはや冷静さを失い、自らの姿を想像できなくなってしまう、ついに消すことができなかった。彼は死ぬまで、この世界で孤独に過ごすことになった。

いや、消しゴムにより消されたのは、彼自身だったのかもしれない。

小学生の頃

せきがえでとなりになった子

けしゴムをかしてもらったり

けしゴムをかしてあげたりしてた

たったそれだけでなかよくなれたし

たったそれだけでしあわせになれた。

「とこをあわせて言い方

「才能の搾りカスはいらんかね。」

「大学生である俺に声をかけたのは、輪廻屋と書かれた胡散臭い店のご老人だった。普通は無視するが、丁度単位が危ぶまれていた俺は一直線に向かう。」

「これはある人の記憶なのじゃよ。これを頭に埋め込むとその人が持っていた才能を頂けるというわけじゃよ。しかも無料じゃ。」

まどめるとそういうことだった。上手い話には裏があるが、好奇心と単位には克てなかった。

俺は『やる気』と書かれたビンに入っていたモノを受け取る。

「ところで埋め込むというのはどうすればいいのでしょうか。」

「そのままじゃよ。こういうふうに。」

そう言つてこめかみをぐりぐりするジェスチャーをした。俺は同じようにこめかみに押し付ける。すると、

「つ。今、知らない記憶を思い出したのですが…なんですか、これは。」

「ああ、言い忘れておった。これは誰かの消したい記憶を消したときのカスでもあるのじゃよ。消しゴムで過去を消したと思ってくればよからう。だが関係無い記憶なのだから気にすることなからう。」

それにギブアンドテイクじゃよ、とも言う。たしかにそうだが…

「それにそろそろやる気を感じてこないかのう。」

全くもつてそうだ。僕は今やる気に満ち溢れている。だがこれは…

それから僕は礼を言い、このやる気を勉強に向けたが…今まで勉強していなかった僕は空回りするばかりで、翌日には同じ場所に立っていた。

『『やる気』もある意味才能ですけど、別の才能ありませんかね。』

その日以来、調子に乗り様々な才能を貰っていた私はある日、

「この店全部の才能をまとめたものないですか。」

そんなことを口走ってしまった。

時間がかかるとのこと、数日後輪廻屋に向かうと、消しゴムを片手に呆けているご老人と片手大の消しカスがあった。迷うことなく消しカスを盗り埋め込む私。すると

「やっと終わったかのう…おっと、この口調も変えないとな。」

そこには、老人の記憶を持った青年の姿があった。

手帳の中のたくさんの予定

バイトにサークルに飲み会で埋め尽くされている

本当は行きたくないことだつてやまほじ

消しゴムでそんなのを全部けしてみる

のこっていたのは2つだけ

そんな2つを楽しみにしながら

今日も僕は酒をのむ

【急募】文字・マークを消すアルバイト

ただいま当方では文字・マークを消せる方を募集しております。参加条件に適する方がいましたら是非ご応募ください。お待ちしております。

《募集条件》

- ・ 募集人数：2人（ただし二人目は補欠扱い）
- ・ 勤務地：主に文字を書かれた紙の上
- ・ 勤務日時：随時。基本的に日中。ただし時期によって仕事の量にムラがあります。ご了承ください。また、不定休です。
- ・ 服装：基本的には自由ですが、頭が出ていることが条件です。ただし、状況によっては服を短くしたり、全裸になっていた場合もございます。
- ・ 給与：能力に応じて登録時に50〜500円程度を支払います。ただし、上記以上の能力をお持ちの場合はこちらの都合上お断りさせていただきます。
- ・ 勤務期間：なくなるまで

《備考》

- ・ 身を削るお仕事ですので、体力に自信のある方は大歓迎です。
- ・ かなり汚れます。
- ・ 身をちぎられる場合がございます。
- ・ 行方不明になる場合もございますが、発見されなかった場合その時点で勤務終了となります。ご了承ください。

サクラ
：

あれは今から1年前、某大学入試の時の出来事だった。

電車の遅れで会場への到着が大幅に遅れた俺は、すんでのところで教室に入った。最初の科目は数学。息を整えながらペンケースをカバンから出し、筆記用具を机に並べ：そこで俺はある異変に気付いた。

：消しゴムが、ない？

あろうことか俺は、消しゴムをペンケースに入れ忘れていたのだ。

焦燥と混乱、恐怖に駆られながらケースを探す。

——どうする、同じ部屋に知り合いはいない、他の部屋に借りに行っている時間はない。シャーペンの後ろについていればいいのだが、先日買い換えたばかりのこのペンは付いていないタイプのものだった。

見ず知らずの受験者に借りるか？ いや、しかし——

一瞬の迷いが仇となった。次の瞬間、試験監督の声が響く。

「試験用紙を配るので、全員席を立たないように」

すべてが終わったと思った。教のためにこれまで積み重ねてきた時間、そのすべてが無駄になるかもしれないという恐怖、後悔と絶望、悲嘆に包まれながら、すぎる思いでケースをあさる。

はたして、そこに救いの神はいた。手に持ったのは古い一本のシャーペン。使いやすいう物を手に入れてからずっと使っていなかったそれが、ケースの底から顔を出した。後ろに消しゴムは：減ってこそいるが、付いている！俺は急いでそれを取り外し、試験に取り掛かった：

すべての問題を解き終わった。つまむことも困難になっていた消しゴム、いやかつては消しゴムであった消し屑は直前に粉と消え散っていたが、それでも最後まで解き切れた。

何を解いたかなんて覚えていない。ただ、すべてに勝ったと思った。

もう俺は何も怖くない、この後の試験なんてどうだってなる、どんな問題だろうと大丈夫：そんな気分だった。その勢いのまま俺は次々と試験をこなし、夕方、意気揚々と家路に着いた。

そして数日後、掲示板に俺の受験番号は、なかった。

次の本文を読み、設問に答えなさい。

〔芥子 護謨男「けしごむ」より抜粋。引用の際、加筆・訂正を加えた部分がある。〕

問2. 本文中、「おかし」という単語は何回出てくるか。回数を答えなさい。(20点)

問3. 本文中、「みそ汁」という単語は何回出てくるか。回数をこたえなさい。(20点)

問4. 本文中、「けしごむ」という単語は何回出てくるか。回数を答えなさい。(20点)

問5. 本文中、全く単語を形成していないひらがなの文字数を答えなさい。(20点)

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	無題（頭の中の消しゴム）	3 pt	7 位	1 sp
		なんだろう？と、さくっと問いかけ表紙。 これを、たいせつで消せないもの、とポジティブにとらえるか、消したくても消せないものとネガティブにとらえるかで、その日の気分が占えそう。 まさか 12 とのコラボになるとは、結果オーライ。 特別賞：1 の答えは 12 で賞 from R 班（12 と共同受賞理由：ゲシュタルト崩壊）		
02	消しゴムと神様と。	16 pt	1 位	2 sp
		無限ループに仕立てた構算力◎。 消しゴムくんのひたすらなげさが伝わってくる描写力も◎。 すばらしかったです。5 つの班が首位に推しました。 作者さん登場で、ちょっとびっくりしたのはナイショです。 おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：ケシゴムの神様はそれはそれはキレイな女神で賞か!? from U 班（毎日消したらべっぴんさんになれますか？）こっちのほうが輪廻で賞 from Y 班（8 番より輪廻してる気がするから）		
03	消したいもの	2 pt	8 位	0 sp
		なにより口調が個性的で焼き付きます。 「強くやった」って、いったい何をやったのでしょうか。わからないから、よけいに怖い。 イチオシフレーズ：「ゴシゴシ」		
04	無題（ありがとう）	0 pt	12 位	0 sp
		うん、小学生の頃はこんな純粋な気持ちでしたよね。 すなおさがまっすぐ伝わってきて好感度大。 心が汚れてしまったと思ったら、あの頃のにおいを思い出してみよう、そうしよう。		
05	私の感じるけしごむ	5 pt	5 位	1 sp
		けしごむコレクション。あんなのもいたなあと、懐かしさや賑やかさが伝わってきます。 ラストの百均、いや品揃えハンパじゃないよというのが受賞理由でした。 特別賞：百均パねえ賞 from X 班		
06	無に返す	1 pt	9 位	0 sp
		魔法なんて使うもんじゃないな。ストーリーをどんどん加速させることで、メッセージがすっきり伝わってきます。 王様が壊れゆく際のセリフとか気持ちを描き込むと、もっと読者が入り込めそう。		
07	小学生の頃	6 pt	4 位	0 sp
		フォントかわいい。 子どもかわいい。		

		りあじゅうなんていうかいじゅうのそんざいをしらなかった、しあわせなあのころ。
08	一と二をあわせた言い方	1 pt 9 位 0 sp
		アヤシイ老人に記憶ごと乗っ取られてしまった俺。ホラー感、しっかり醸し出されています。消しゴム、ではなく、消しカスにフォーカスした着想ナイス。
09	無題（手帳の中の）	1 pt 9 位 2 sp
		えいっと消してしまう、すがすがしさ。で「2つ」って何なの？ クリスマス&バレンタイン、いやいや彼女とオレの誕生日だろ、というのがT Aさんの推定でしたけど。特別賞：アルコール依存賞 from T班（バイト無視しましたよね？） リア充賞（友達もいて、彼女もいて、予定もたくさんあって、僕は彼がうらやましくてたまりません。） イチオシフレーズ：「今日も僕は酒を飲む」
10	【急募】文字・マークを消すアルバイト	12 pt 2 位 1 sp
		消しゴムタスクをバイト条件として表現したアングルがおもしろかったです。募集しているのは誰だろう？ 受験生とか、よりクリアに見せても良かった。狙いのユニークさがヒットしてシルバー・メダルです、おめでとう!! 特別賞：過労賞 from S班（死ぬ寸前まで働かされて解雇） イチオシフレーズ：「全裸になっていただく場合がございます。」×2
11	サクラ…	4 pt 6 位 1 sp
		散っちゃったんだサクラ、残念。一緒にはらはらどきどきできる、臨場感ある記述でした。なるほどなるほど実話だったのですね、この迫真力。この季節、受験番号気分がみんなにヒットして今週のイチオシフレーズ大賞です。特別賞：何教のためにで賞か？ from Q班（「教のために」） イチオシフレーズ：「教のために」「そして数日後、掲示板に俺の受験番号はなかった。」×2
12	消しゴム適正検査	9 pt 3 位 2 sp
		みんながこんなにもいっしょうけんめい取り組んでくれるなんてっ。答えを考えていなかった作問者さん、しあわせもんです。リクツ抜きではまれる造り込みのこまやかさ、楽しめました。おめでとうブロンズ・メダル & 最多特別賞 & イチオシフレーズ大賞タイ!!! そうそう、正しくは適「性」検査ね、ご用心。特別賞：何の検査で賞 from V班（気になります） ラブ注入賞 from Z班（たのしんど） 1の答えは12で賞 from R班（1と共同受賞 理由：ゲシュタルト崩壊） イチオシフレーズ：「たのしんど」「たのしんどむ」

